

▲ 伝統的な織物について説明する女性
草をはむアルパカ



マチュピチュ遺跡 ウルバンバ渓谷 (ペルー)

高度なインカ帝国文明の歴史

南米アンデス山脈で15〜16世紀に築えたインカ帝国。スペインに征服されるまで農耕や石積み技術などの高度な文明を誇った。そんな繁栄の歴史を感じられる「空中都市」マチュピチュ遺跡、当時の優れた文明を示す遺跡が点在するウルバンバ渓谷を巡った。

ペルーの首都リマから飛行機で1時間半ほどで、インカ帝国の古都クスコに到着。標高は約3400mほど、降り立った瞬間から空気の薄さを感じる。壮大な山々を眺めながら車と列車を乗り継ぎ、マチュピチュ遺跡に着いた。

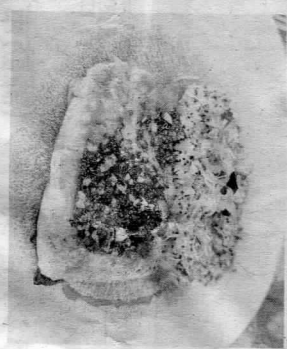
入ロでチケットを提示し、ぼくも歩く。高い山々に囲まれた屋根にそびえる都市が姿を現した。青々とした草と、整然と並ぶ石造りの建物のコントラスに魅

繁栄の跡 パワーを感じ

せられ、カマのシヤッターを奪中で切る。

標高約2400mの断崖にそびえるマチュピチュは15世紀ごろに築かれ、1911年に発見された。この場所に都市が建設された理由は今も分かっていないが、神殿や住居として使われていた建物の中に入ると、当時の人々の生活する様が目に浮かぶよつた。

現在も崩れない精巧な石組みを間近で見ると圧倒されていると、ガイドの女性は「パワーを感じるでしょ」



マスのケリル

「よ」とは嬉しかった。

次にクスコとマチュピチュとの中間地点に位置するウルバンバ渓谷に車で向かった。「聖なる谷」と呼ばれる渓谷には、インカ帝国時代のさまざまな遺跡があらわに残っている。帝国時代にとりでの役割を果たしていたオリヤンタイタンボや、農事試験場だったとされるモリテを訪れ、当時の人々の生活に思いをはせた。

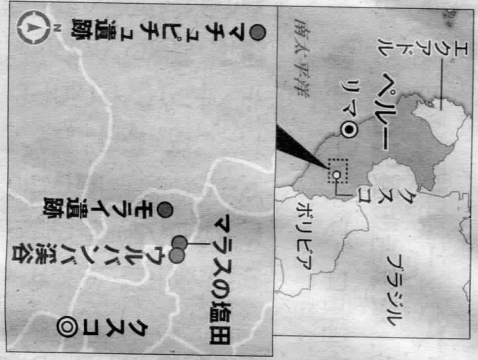
帝国を築いたチチカ族の伝統的な織物の工房も訪れた。アルパカの子ども毛を使った織物は、頬ずりしたくなるような柔らかな手触り。併設された店舗には、色鮮やかな織物やストールなどが並ぶ。

ウルバンバの中心部では、伝統的なペルー料理を楽しむレストランを訪れた。ペルーでは日常的に魚が食べられているとい、南部に位置するチチカ湖で捕れたマスを注文。脂が乗ったマスを添えられたカレー風味のキヌア(南米原産の植物)と相性抜群だった。

近郊の「マスの塩田」にも寄り添った。

真つ白な段々畑に目を奪われる。天然塩水が湧き出ており、それを天日干しして塩を作るそう。インカ帝国時代以前から塩作りが行われていたとされ、長い歴史を持つ塩は懐かしい味がした。

クスコやウルバンバでは、遺跡周辺や宿泊施設などでアルパカやラマに出会うことができた。のんびりと草をはむ様子が癒やされ



マチュピチュ遺跡